

大道理かわら版 むくろじ

発行元
大道理夢求の里交流館
運営協議会
TEL: 0834-88-1830

平成27年
11月1日号
(No.7)

大道理地区の世帯数と人口
世帯数 189世帯
人口 404人
男性 183人
女性 221人
(平成27年9月30日現在)

移住希望の方がたへのサポーター 里の案内人さんご紹介!

移住して来られる方たちに、物件や、地域のことについての説明をされ、地域の方たちとの橋渡しの役割をされている「里の案内人」さん。
大道理地区では、里の案内人制度が発足した当初の四人の方に加えて、この度、新たに一名の方が加わって、五名となった里の案内人さんの活動の取り組みと、里の案内人としての思いについて、取材させて頂いて来ました!



右から福田国雄さん、斎藤数典さん、兼平好さん、兼俊勉さん、秋真正史さんの5人が「里の案内人」メンバーです!

はじめに、活動の歴史と、具体的にどのような活動をされて来たのかをお伺いしました。
活動が始まったのは平成二十三年からで、メンバーの皆さんでまず、大道理地区にある空き家がどのくらいあるかを調べました。空き家自体は三十軒ありましたが、お貸しできる状況にありそうなものとしては十六軒で、そのうち家主さんの了承が得られたものは三軒でした。
一番最初に移住が決まったのは、下松市から河内地区の空き家を改装して移住された田原さんのご家族で、空き家物件の中でも一番奥に位置していたので、里の案内人さんたちは驚かれたそうです。

移住への決め手と覚悟



里の案内人さんと市の職員さん、移住希望者さんと物件の家主さんとの初顔合わせ風景です!

こちら物件について市の空き家情報バンクに登録してからの見学に来られた方は十四組だったというところですが、里の案内人さんたちは、個人個人で問い合わせに対して対応されたという事実を、実際に家をご覧になってから、移住をご希望された方と、家主さん、里の案内人さんと市の職員さんとの顔合わせをして、具体的に売買に向けて動き始めました。
空き家となってから二十年経っていたこちらの物件は、熊が屋根を壊し、雨漏りがして床が崩れていたため、移住される前に、田原さんご一家は半年かけて下松市から修理に通われたそうです。
移住の決め手となったのは、静かで環境が良いのが魅力だったということですが、それと同時に冬の寒さや、通勤、買い物に行くまでが遠い等、不便さへの覚悟も必要だともおっしゃっていたそうです。

物件の管理と移住後のサポート



空き家の草刈りをされています

里の案内人さんたちは、空き家情報バンクに登録された物件について、案内の他、草刈りや引き渡し前の掃除等の管理をされています。写真や現地での移住前の草刈り作業の様子



移住された方のお住まいの井戸ポンプを修理されています

写真の上田さんが移住されたお住まいは築百年以上、電気、水道等のライフラインが通っていないが、地元の車屋さんの貞森さんの協力を得て井戸ポンプを修理されて、飲料水が無事確保されました!



お掃除をされています!

家の修理等は基本的には移住される方のご負担になります。が、本年度より市から修理費の半額(最高百五十万円)の補助金が入居される方に出るようになり、残留物の処分費用も最高十万円まで出るの助かりますと案内の皆さんはおっしゃっていました。

里の案内人としてのやり甲斐!



テレビ局に取材されています!

「空き家物件の数が多かったり、古かったりすると、それだけ手がかかり、管理が大変になってきますが、移住が決まった時はうれし」といってお話をされる案内人さん。また、



あいさつの言葉を述べる土田会長



あいさつをされる木村健一郎周南市長



花束を受け取る安野さん(左)と栗山さん(右)

「移住された方がたが、溶け込めるかどうかが一番心配で責任を感じるところなので、地域に溶け込まれたことを知るとうれし!」とおっしゃるやうに、そのやり甲斐と責任についてそれぞれ皆さんお話し下さいました。日野地区へ移住された川内さんご夫婦は二人のお子様にも恵まれて現在お忙しい毎日を送られているとのこと。
最後に、里の案内人代表の斎藤数典さんは、空き家については「入って来られる方には地域に馴染んでほしい。また、空き家があれば、早めに教えてほしい」とおっしゃるやうに、
「四人で出発して四年が経ちました。和気あいあいと皆で楽しくやっています。五人になってこれからは協力してやっていきたい」と、これからの活動への思いを語って下さいました!

青空の下で晴れやかに!
大道理もやい便出発式開催
十月二日、「大道理もやい便出発式」が開かれ、木村健一郎周南市長、市議の方々、大道理の各自治会長さんや大道理にお住まいの地元の方々など沢山の皆さんが出席され、清々しい青空の下で晴れやかな式典となりました!

市の生活安全課の山本課長の開会の言葉であったように、「大道理もやい便」は、昨年十月から大道理地区内の生活交通として実証運行されて来、十月二日より本格的な運行が始まりました。
主催者として木村健一郎周南市長が「もやい便」が皆さんの生活の助けになるように、沢山の皆さんに利用してほしい」とあいさつされた後、地域の代表として、大道理をよくする会の土田友己会長が「もやい便」がこれから長く

地域の皆さんの願いを乗せて出発！



もやい便出発式の参加者全員で記念撮影！

式の後、「大道理もやい便出発式」に参加された皆さんでの記念撮影も行われ、秋晴れの下での出発式は無事終了しました。



テープカットの瞬間です！

そして木村健一郎周南市長、地域の利用者代表の山本今子さん、周南市議会の米沢痴達議長、夢求の里交流館運営協議会の中村俊道会長、大道理をよくする会の土田友己会長の五人でのテープカットの後、もやい便本格運行開始後の第一便が出発しました！

大道理の“少し”昔を偲ぶ

【河内地区の少し昔のお話】

サロンに参加されている方たちに、「大道理の昔のお話を聞かせてください！」とお願ひしたところ、河内地区出身の原君子さんからお話を頂き、現地を訪ねながら、かつての河内地区についてのお話をお伺いすることができました。



河内地区のかつてのお話を聞かせて下さった原君子さん

国道376号から河内地区へ入る道は大道理地区の中では、早くに舗装されたそうです。国道から河内地区へと入っていくと、杉木立で日中でも日陰になっていきますが、「昔こら辺は田んぼで、明るかった」と、原さんはおっしゃいました。途中の川原で車を停めて降りてみると、こちらも杉の木立になっていきますが、このあたりも「かつては田んぼだった」とのことです。

そして、原さんが河内に住まれていた当時植えられた、ミツマタの木を指して、その頃は手漉き和紙の産地である徳地の方から、買いに来る方があり、一万円で売れていたというお話をされました。それから原さんは、このすぐ近くの木でできた橋を指し「これは私が渡したの」とおっしゃり、杉の木もご主人が亡くなられてから、原さん自身の手で植えられたものだと話されました。

【下河内十一面観音】



かつては、大向へ抜ける河内の道には往來が多く、にぎやかだったそうです。子供も多し、八月十日の観音様のお祭りでは、集落の皆で集まって、おはぎをこしらえ、お茶を入れ、椅子を置き、灯りを灯して通りがかりの方たちへお接待をされていました。朝から日が暮れるまで1日じゅう行われるお祭りで、「打ち上げの時はお酒を皆で飲んだ。賑やかだった時代だった」と

原さんは懐かしそうにお話して下さいました。

「水戸黄門など時代劇をテレビで見ていると、ご老公様たち旅の一行が、街道の茶店などで一休みする光景をよく見るけれど、これを見ると、かつての河内での観音さまのお祭りが賑わっていた頃を思い出すんですよ。」とも言われました。

十一面観音様が祀られた「いわれ」については諸説あり、『大道理の昔』によると「昔、河内の道を造っていた時、掘割のところから出た石で、固くていくら叩いても割れず、その道の人の見てもらったところ、この石で十一面観音を造って安置したら永久に下河内を守ってやろうという心で観音様を掘って安置したもの」とありますが、原君子さんから伺った話では、おじいさんのそのまのおじいさんからの言い伝えであることを前置きされ、「集落での川掃除の時、川で見つけた石が、観音様を思わせる形をしていた。当時河内は子供の多い集落で、子供の健やかな成長を願って、この石を川から引きあげ、掘り、観音様として祀った」というものでした。いずれのお話も集落の人々や子どもたちの幸せを願って安置されたというもので、とても優しいお顔をされた観音様です。



観音様にお参りされる原さん

大道理をよくする会からのお知らせ

元気！大道理ふるさとまつり

日時..11月8日(日) 10時~15時半
場所..大道理夢求の里 交流館運動場及び、交流館内
★雨天時は体育館にて開催します。
バザー、作品展示、ステージイベント、はた織り体験、空くじなしの福引き、祭りのシメは恒例のもちまき！皆さまお揃いでお越しください！

夢求の里交流館からのお知らせ

ミニサロンのお知らせ

日時..11月11日(水) 13時30分~16時
場所..大道理夢求の里交流館 大会議室
対象者..男女年齢問わず どなたでも歓迎
備考..ご希望の方は、送迎をいたします

サロンのお誘い

日時..11月25日(水) 10時30分~16時
場所..大道理夢求の里交流館 大会議室
対象者..男女年齢問わず どなたでも歓迎
ご希望の方は、送迎をいたします



編集後記

読書の秋、食欲の秋、芸術の秋、スポーツの秋。澄んだ青空を見てみると、カメラを持って出かけたり、何か体を動かしたり、さわやかな青空の下で、何か活動したくなる季節が到来しました。今年の秋は夏の終わりとともにいつもよりも早めに駆け足でやって来た気がして、朝夕の寒さのため、我が家のこたつは、たった二か月のみ休息しただけで、十月の私にはもう大活躍中です。(冷え性肉ついたらもういらない)と若い頃から色々な人から言われたり、今年の夏に小野田在住の友人から腹巻きをプレゼントされたりと冷え性が深刻な私。腹巻きはとっても重宝して、頂いて以来すっかり手放せず、仕事の時も常に私のお腹を冷やさないようにしてあげています。スポーツで筋肉をつけるという話はとほろ苦い記憶しか蘇らず、なかなかはじめの一步の勇気が出ない状態です。社会人になってから、子ども時代からの憧れの「少林寺拳法」にちょっとだけ近いと勝手に考えて数年間太極拳を習いましたが、体が覚えず、先生が前にいてくれなくて舞えない状態が「なぜ何年経っても二十四の型が覚えられないんだらう」とちよつと切なくなり、仕事で教室に行けなくなってしまうとそのまま無期限の活動停止に。夢求の里交流館でお世話になるようになってから「よし卓球をやろう！」と思って、毎週火曜日の卓球教室に「行きます」といったものの未だに門を叩けないままです。そのなか、大道理地区で十月十八日の日曜日、運動会が開催されました。当日は清々しい蒼天の秋晴れで、楽しく和やかな雰囲気の中、運動会に参加しました。私は当初カメラ担当という形で持ちも若干高揚気味になり、「ハイ！出ますっ」と綱引きに急ぎよ参戦させました。高校時代から二、三十年ぶりの綱引きで、最終的にはズルズルと引張られてしまいました。良いなあと爽やかな気持ちになりました！カメラマンとしては、抽選会の前にはバッテリー切れを起さず、タイム途中で充電に交流館に走り、タイム中断。写真の出来も、参加された方の活き活きとした表情を納めたMさんの写真と比べるとため息ものではないかと、今更にご手意識が強く、逃げ腰だったスポーツと、ほんの少し仲良くされた気がしました。(山縣清子)